

十味敗毒湯エキスとにきび

先日、ある薬局で話題になっていたのですが、クラシエ十味敗毒湯エキスの 1.5 倍量を 3 週間使用すると難治性挫創患者の 82% に改善が見られるという記事をクラシエの担当者が持ってきて、大学病院の皮膚科でも近く繁用されるであろうという話でした。

今回は、何故ツムラの十味敗毒湯ではなくてクラシエの十味敗毒湯エキスだったのかという話題です。

1) 十味敗毒湯とは

十味敗毒湯は、我が国の外科医である華岡青洲が江戸時代に作った処方の中の 1 つです。華岡青洲は 1804 年に通仙散という経口麻酔薬を作り、世界で初めて乳がん手術をしたことで有名です。

私は中学時代を石川県金沢市で過ごしていたのですが、観劇という学外授業があり、中学から歩いていける距離にあった観光会館で「華岡青洲の妻」という文学座の劇を見に行ったことがあり、その意味でも印象深いものがあります。麻酔薬を治験するために母や妻に飲ませたところ、その妻が失明してしまいましたが、妻の身を挺した献身的支えのもとで、嫁姑の葛藤も交えながら、麻酔薬を完成させたという物語でした。北村和夫さんが華岡青洲役を、母親を杉村春子さんが演じていた記憶はあるのですが、妻役を誰がやっていたのやら、記憶がありません。

閑話休題。

2) 十味敗毒湯の起源

十味敗毒湯は、その名前が示すように十種類の生薬から構成される毒を排出する方剤で、主として分泌物の少ない化膿性の皮膚疾患に利用されています。当然、尋常性挫創（にきび）にも使用されています。構成生薬は、華岡青洲が作成した原典によると「柴胡、桔梗、羌活、川芎、荊芥、防風、茯苓、甘草、桜筩、生姜」となっており、「十味敗毒散」としていました。「桜筩」は桜の幹のあま肌部分を削ったものですが、現在では周皮を除いた樹皮の「桜皮」で代用しています。

後年、浅田宗伯という医師が「桜筩」を「樸楸」に処方変更して「十味敗毒湯」と称しました。現在では、さらに羌活を独活に変更して、桜皮か樸楸かの二種類の処方のエキス剤が市場に出回っています。ちなみに、クラシエの製品は桜皮を含有しています。ところで、桜皮と樸楸の特長ですが、

桜皮(おうひ)：バラ科ヤマザクラなどの周皮を除いた樹皮。鎮咳・去痰剤として桜皮エキスのブロン液®が有名。その他、排膿、解毒の作用から湿疹や蕁麻疹の解消などに利用されま

す。

樸楸(ぼくそく)：ブナ科クヌギの樹皮。血の滞りを巡らし、解熱・解毒作用があり、各種皮膚疾患に利用される。

3) にきびの発症機序

男性ホルモン（テストステロン）やプロゲステロン（黄体ホルモン）が皮膚の皮脂腺に作用し、皮脂分泌を亢進する結果、過剰な皮脂がつまったりして炎症を起こし、にきびが形成され、さらにアクネ菌などの感染症によって炎症が悪化するというのが一般的なにきびの発症機序とされています。

にきびの形成には性ホルモンが深くかかわっていることが分かりますが、さらに次のような性ホルモ

ン同士の作用も知られています。

- ①男性ホルモンのテストステロンが5 α リダクターゼによって変化したジヒドロテストステロン (DHT) は、男性ホルモン作用が最も強く、皮脂腺の分泌を活性化する (女性にも男性ホルモンは合成されています)。
- ②この5 α リダクターゼの活性は、エストロゲンの存在によって抑制される。
 - ☛エストロゲンは性ホルモン結合グロブリン (SHBG) の合成を促進させる。
 - ☛SHBGは遊離のテストステロンと結合することによりDHTへの変換を抑制する。
 - ☛よってエストロゲンの存在は間接的ににきびの発症を抑制する。

4) 桜皮と樸椒の作用の違い

クラシエ製薬さんが公開しているデータ(遠野弘美ら; 薬学雑誌、2010年)によると、

- ①十味敗毒湯のにきびへの効果は、従来は構成生薬の荆芥や甘草などのもつアクネ菌に対する抗菌作用と考えられていた。
- ②2009年に桜皮を含む十味敗毒湯が、女性の尋常性挫創に有用性が高いという報告があった。
- ③皮下の線維芽細胞からエストロゲンが産生されていることが海外で報告されたことをきっかけにして、桜皮から得たエキスも線維芽細胞に作用して、エストロゲン分泌を促進するという報告もでてきた。
- ④このエストロゲン分泌促進効果は樸椒のエキスでは認められなかった。

以上によって桜皮を含む十味敗毒湯は、

- ①桜皮成分によるエストロゲン分泌促進での男性ホルモンの活性化抑制
- ②荆芥、甘草によるアクネ菌への抗菌作用

の二つの効果で女性の尋常性挫創に対して樸椒含有十味敗毒湯より有効に作用するのであろうとしています。

今回、クラシエのもってきた報告によるとさらに1.5倍量を使用することによって難治性のにきびに対しても有効であったということのようです。

5) 桜皮と樸椒の製品

市販の漢方エキス剤で実際にどれだけエキス剤に桜皮と樸椒が使用されているか見てみました。
(数値は1日量当りの生薬量g)

メーカー	柴胡	桔梗	川芎	茯苓	防風	甘草	生姜	荆芥	独活	桜皮	樸椒
クラシエ	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.5	1.5	2.5	
ツムラ	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.5		3.0
コタロー	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0*	1.0	0.3	1.0	2.0	3.0	
三和	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5*	1.0	1.0	1.0	1.5	3.0	
東洋	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.0	3.0!	1.0	1.5	3.0	
大学#	3.5	3.5	3.5	4.0	3.5	2.0	1.0	2.0	2.0	3.5	

* : 浜防風を使用

! : 生生姜を使用

: 富山大学附属病院における煎じ薬での量(同薬剤部和漢薬マニュアル1991年版より)

メーカーは他にもあるのですが、すべて桜皮が使用されています。従って、現在、樸椒を使用しているメーカーはツムラさんだけということになるようです。

また、同じ方剤でありながら、生薬の1日量が微妙に異なっていることも分かります。

以上